

わたしたちにできること～世界に目を向けよう～

安来市立母里小学校 担当教科：全教科 正岡 喜美

実践教科：総合・社会 対象学年：小学6年生 対象人数：11名

■実践の目的

- ベトナムのことを知る活動を通して、異文化を感じ、世界に目を向ける。
- ベトナムと日本が文化や経済などの面で関わりが深いことを通して、開発途上国と日本とのつながりに気づき、開発途上国の貧困問題について考える。
- ベトナムで活躍する日本人の活動を通して、国際協力や国際交流において、日本や日本人が大きな役割を果たしていることに気づくとともに、自分にできることを考えて行動しようとする。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 2 3	ベトナムってどんな国？ ・ベトナムのくらしや文化について関心をもつ	(1)ベトナムについて知っていることやイメージを発表しあう（プレーストリーミング） (2)写真や実物を使って、ベトナムクイズ大会をする (3)ハス茶やフォー、ベトナムのお菓子を食べてみる	ワークシート 写真、ベトナムのお土産 ハス茶、インスタントフォー、ベトナムのお菓子
4 5		(1)ベトナムについてわかったこと、もっと知りたいことを確認し、もっと知りたいことについて調べる (2)ベトナムコーナーをつくって、全校のみんなにベトナムを紹介する	写真 ベトナムについての図書資料、ガイドブック
6	貧しさから生まれる問題 ・貧困について考える	(1)「少年の後姿」を読んだり、ベトナムに対する意識（貧富の差がありそうな気がする）について考えたりしながら、貧しさに目を向ける (2)貧困についての派生図を作成し、貧困の原因や困難なこと（貧困の状況）について考えを出し合う (3)派生図から、貧困によって生まれる困難なこと（貧困の状況）を整理する	「少年の後姿」 ワークシート
7	世界はどうなってる？ ・世界の貧困の現状を知る	(1)ワークショップ「世界がもし、11人の村だったら」を体験し、世界の貧困の現状について知る (2)開発途上国にはどんな国があるかを考える	『世界がもし100人の村だったら』、新聞紙、ビスケット（11枚）、ワークシート、世界地図(DACの援助受取国)

8	世界とつながるわたしたちの生活 ・開発途上国と私たちの生活にはつながりがあることに気づく	(1)わたしたちに身のまわりにあるモノについて、日本から遠く離れたアフリカとのつながりがあるか考える (2)わたしたちの生活がアフリカをはじめとする世界中の国々や地域からささえられていることに気づく	ワークシート【資料1】
9	気づく	(1)資料「どうなってるの？世界と島根県」を読む (2)自分たちの生活が開発途上国とつながっていることを話し合う	「どうなってるの？世界と島根県」
10	ぐるぐるまわる貧困の輪 ・貧困の状況同士がつながっていて、悪循環を生み出していることに気づく	(1)個人で、貧困状況カードを並べ替え、貧困のつながりを考える (2)できた貧困の輪をグループで見比べる (3)個人の力で貧困の輪から抜け出せるか、考える	貧困状況カード
11	貧困の連鎖を断ち切ろう ・貧困の連鎖を断ち切る方法を考える	(1)貧困の輪を見ながら、どうすれば貧困を減らすことができるか考える (2)貧困の輪のどの部分をどんな方法で断ち切ればよいかを説明し合う (3)「チョコレート」にまつわる途上国の問題についてDVDを見て、貧困の輪のほかにも貧困の状況は複雑につながっていることを知り、貧困を減らすために様々な方法があることに気づく	前時に作った「貧困の輪」 DVD「おいしいチョコレートの真実」 DVD「マシュー君のお話」
12	開発途上国で活動する人を探そう ・支援には様々な方法があることや活動している人の思いや願いを知る。	(1)ベトナムで活動している人を紹介する (2)それぞれの人たちの活動が、なぜ貧困を減らすことにつながっているのか、考える (3)ベトナムでの活動から、貧困を減らすために様々な方法があることを理解する	写真
13		(1)元青年海外協力隊の人の話を聞く	
14 15	世界で活躍する人々を探そう ・様々な人や組織が国際協力を行っていることを知る	(1)ベトナム以外の国々では、他にどんな人(団体)がどのような活動をしているのか、調べる ・ODA (JICA) ・NGO ・国連 ・民間企業	図書資料、パンフレット資料
16 17		(1)調べたことをグループごとに模造紙にまとめる (2)発表の準備、練習をする	

18	世界と日本をつなぐ ・それぞれの活動で、日本よさが生かされていることに気づく ・自分たちにできることを考える	(1)調べたことを発表し、聞きあう (2)話し合いを通して、国際協力の大切さや日本の技術や精神などが生かされていることについて考えを深める	
19		(2) これまでの学習を通して、自分に何ができるのか、これからの自分について考え、意見文にまとめる	

■この授業に注目！

1～5 限目 ベトナムってどんな国？

ねらい：ベトナムのくらしや文化について関心をもつ

まず、ベトナムについてどんなイメージをもっているのかを発表しあった。ベトナムから児童に絵はがきを送っていたので、その写真からのイメージとして「人が多くてにぎやか」、「昔ながらの家に住んでいて、自然がたくさん」など出てきた。ほとんどの児童がベトナムと日本につながりがあることを感じていなかった。

その後、ベトナムから送った絵はがきに書いていたクイズをしながら、ベトナムの紹介をした。

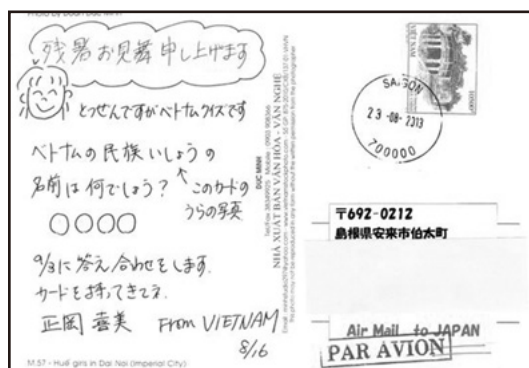
(クイズの例と紹介したこと) *クイズは全部で11問(児童数分)

- ・ベトナムの首都は？一番人口の多い都市は？-訪問した都市、ハノイとホーチミンを紹介
- ・ホームステイをした民族は？-少数民族がたくさんいること、モー村の紹介
- ・ベトナムでは何回お米がとれるでしょう？-米をよく食べる、フォー、メコン地域

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・ベトナムにはすごくおいしいものがたくさんあることや、民族がたくさんいるということは意外でした。
- ・ベトナムも米が主食で同じなんだなと思った。
- ・フルーツの「ナ」というのが食べてみたい。他にどんな果物があるのか、調べてみたい。
- ・最初はあまりベトナムは知らないと思っていたけど、先生がいろいろしょうかいしていくうちに、あ、知ってるということがたくさん出てきてびっくりしました。

その後、ベトナムで買ってきたインスタントフォーや日本にあるお菓子と似ているお菓子(「おっとと」や「コアラのマーチ」のようなもの)を食べてみた。そして、ベトナムについて図書資料を使って調べ、教室の前にベトナムコーナーを作り、全校のみんなにもベトナムのことを知ってもらう活動をした。



ベトナムから送ったクイズ付はがき



ベトナムパーティで食べたもの

→ 日本のお菓子と似たようなパッケージにビックリしていた。下のお菓子は、日本のものよりもおいしいと評判で、すぐになくなってしまった。

↑ インスタントフォーボー、フォーガーを作って食べた。唐辛子を入れてしまい少し辛かったけれど、「おいしい」という人が多くいた。



ベトナムコーナー①：子どもたちが調べてまとめたことを掲示

→ おみやげの中では、竹とんぼが大人気。いつもだれかが、手に乗せて遊んでいました。



ベトナムコーナー②：ベトナム体験の紹介・おみやげを展示

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・ベトナムパーティで食べたフォーはおいしかったです。お菓子も食べたけど、おいしかったので、日本とベトナムとは味の感覚が似ているのかなと思いました。
- ・初めはベトナムと日本は食べているものとか、くらしとかも全然違うかなと思ってたけど、けっこう調べていくと、仏壇やお寺など日本にもあるものや日本でもすることなどがあつた。

〈所感〉

ベトナムから送った絵はがきに書いておいたクイズの答えを調べてくる児童もたくさんいて、ベトナムに対する関心は高かった。写真だけでなく実物を手にとったり実際に食べてみたりすることで、ベトナムと日本とのつながりを感じることができた。さらに、ベトナムについて調べたことで、日本と似ている点や違う点を知ることができ、ベトナムという遠い国を身近に感じることができたと思う。この後、外国語活動と関連させて他の国についても調べ、世界と日本のつながりを知ることができた。世界に目を向けるきっかけとなる活動だった。

6 限目 貧しさから生まれる問題

ねらい：貧しさから起こる困難なことや貧困の原因を考える

まず、ベトナムの貧困問題を取り上げた話「少年の後姿」を読み、戦争によって貧しさが生まれることを考えた。そして、『ベトナムってどんな国？』の活動をした後のベトナムのイメージとして、「貧富の差がありそうだ」という意見をとりあげ、現在もベトナムは貧富の差があり、世界的にみると貧しい国（低所得国）であることを伝えた。

次に、貧しいことから様々な困難なことが生まれることその困難さがつながっていることを、グループで貧困マップ（派生図）を作りながら考えた。グループで作成した貧困マップは、隣のグループに回して見合った。このとき、自分のグループにはない視点にはシールを貼り、意見を共有した。



← グループで考えを出し合い、貧困マップを作成。

でき上がった貧困マップ →



〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・ 貧しい人は、食べ物がなかったり服がなかったりして病気になってしまうことがわかった。
- ・ マップを見てみると、思っていたよりたくさんのが出て、「貧困」は一言で言えるけど、その中にはたくさんのがあって、すごく重い言葉だなと思いました。
- ・ 貧しい人たちは、生きることで精いっぱいだけど、ぼくたちはいろんなことができるから、貧しい人たちのために支援できることを考えたいです。
- ・ 貧しい人は、助けてもらえることがあんまりないから、貧しい人は減らないのだと思う。お金持ちの人が少しでも支援してあげたら、貧しい人も貧しくなくなるんじゃないのかな。

〈所感〉

「貧困」とは貧しいというだけではなく、貧しいことから様々な困難なことが生まれることやそれらの困難はまた次の困難を生み出すということに気づいて欲しいと思い、貧困マップ（派生図）づくりを行った。この活動によって、それぞれの困難さが複雑につながっていることに気づき、貧困問題は重大な問題であることを理解することができた。また、貧困問題を解決するためにできることはないかを児童もいた。この段階では、「支援」という言葉を使っているが、「支援＝寄付、物をあげる」と考えている児童がかなり多くいる。

7 限目 世界はどうなってる？

ねらい：世界の貧困の現状を知る

『世界がもし 100 人の村だったら』を参考に「世界がもし 11 人の村だったら」のワークショップを行った。

①男女比、子どもと大人の比を知らせる。

②各大陸を 1 つの国として、広さを新聞紙であらわし、みんなで並べる。

〈データ〉A 国（オセアニア）—1 枚、B 国（南アメリカ）—3 枚、C 国（北アメリカ）—2 枚、D 国（アジア）—4 枚、E 国（ヨーロッパ）—2.7 枚、F 国（アフリカ）—3.5 枚
大きさや場所を見て、すぐにそれぞれの国が各大陸を表していることに気づく児童がいた。

③各国に住む人数を発表。

〈データ〉A 国—0 人、B 国—0.5 人（1 人がいすに座る）、C 国—1 人、D 国—6 人、E 国—1 人、F 国—2 人

④栄養について、知らせる。

〈データ〉この中の 2 人、F 国の人は、栄養が十分でなく、1 人は死にそうです。そして、1 人、特に C 国の人は太りすぎです。

⑤世界の富を 11 枚のクラッカーとすると、どのように分けられるかを、実際に分けてみる。

〈データ〉C 国は 7 枚弱をもっている。A、B、D、E 国で 4 枚弱をもっている。そして、F 国はかけらを分け合っている。

1 枚ずつ数えながら C 国から配っていくと、「え〜」「もらいすぎ」という声があがった。

ワークショップでは、日本は D 国（アジア）に属することから、自分たち（日本）は貧しい国だと感じている児童がいた。

この後、「世界がもし 100 人の村だったら」をもとにしたワークシートを使って、宗教や言語、エネルギーや生活についての現状を確認した。そして、所得によって色分けされた世界地図を見て、日本は高所得国であることを知った。

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・ほくは最初のワークショップで、F 国の人たちになりました。他の国は（富が）たくさんあるに、F 国はとでも少なくて不公平だなと思いました。
- ・C 国の人はいっぱいクラッカーを持っていたのに、F 国の人はかけらしかなかったなあ。不公平だから、C 国の人があげたらいいな。
- ・はじめは日本はお金持ちじゃないと思っていたけど、資料を見ると、世界的にはお金持ちだったらびっくりした。「後発開発途上国」が世界にはこんなにあるんだと思った。
- ・最初は（日本は）お金がないと言ったけど、世界には、自分たちよりもお金がない人がいる。ベトナムも貧しい生活を送っていることがわかりました。開発途上国がいっぱいあってびっくりしました。
- ・アフリカの方の人たちがすごく困っていることがわかりました。ほく達は世界的にみたら、すごくめがまれていたから、アフリカの人たちや貧困で困っている人たちに募金ができたらいいなと思いました。

〈所 感〉

「100 人の村」を「11 人の村」にすると数値がかなり大まかなものになってしまったけれども、実際に体験することによって貧富の差があることが実感できた。

このワークショップで終わってしまうと、C国（北アメリカ）の人だけが裕福なイメージを持ったまま、そして、日本は裕福でない国のひとつだと勘違いしたままになってしまうので、実際はどうかを知らせるためにDACの援助受取国を表した世界地図を見せたことはよかった。日本が裕福な国だということや開発途上国がたくさんあることをはじめて知った児童が多くいた。自分たちは支援をする側だということが理解することができ、「自分たちにできることを考え、実行する」ことは大切だと感じる児童も多くいたと思う。

8・9 限目 世界とつながる、わたしたちの生活

ねらい：開発途上国と私たちの生活にはつながりがあることに気づく

『国際理解教育実践資料集（JICA 地球ひろば）p10～12』のワークショップ「私たちの生活とアフリカとのつながりを考える」を行った。

- ①たこ焼き、携帯電話、蚊取り線香、チョコレートなど日本人におなじみの18品目から、アフリカとつながりがあるものをグループで相談して選ぶ。【資料1】
- ②どんなつながりがあるのかを発表しあう。
- ③答えのプリントを見て、18品目すべてがアフリカとつながっていることを確認する。
18品目のうち、アフリカとつながりがあるものとして子どもたちが選んだものはチョコレートやダイヤの指輪、コーヒーなど3～4品目だった。18品目すべてがアフリカとつながっていることを伝え、「どうして?」と不思議そうにしていた。
- ④コラム「レアメタルが軍事資金に」を読んで、考えたことを発表する。

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・身近に使ったり食べたりしているものがアフリカから輸入されているんだな。
- ・アフリカと日本がすごくかかわっているのがわかった。アフリカからすごく意外な物を輸入していて驚いた。
- ・アフリカの人たちは私たちの生活を豊かにしてくれているけど、自分たちの生活は苦しいままなんですごくもうしわけない。
- ・以前「チョコレートと青い空」という本を読みましたが、その中のセリフでアフリカの男の子が「チョコレート？そんなもの食べたことないよ」と言っていました。アフリカの人たちはチョコレートのカカオ豆を作っているのに食べられないのは、かわいそうです。
- ・ほくたちが使っている携帯電話やパソコン、ゲーム機などで使うレアメタルのことで紛争が起きているのは知りませんでした。
- ・少しでもレアメタルをとる量が減り、紛争がなくなしてほしいので、ゲーム機やパソコンなど大切に、長く使いたいと思いました。
- ・レアメタルはみんなが少しがまんすれば、紛争がなくなるのに……。

〈所感〉

前時の学習で開発途上国がたくさんあること、特にアフリカに多いことを知った。しかし、アフリカは児童にとっては未知の国で、自分たちとは関わりがないと感じている児童が多くいた。この学習をすることで、アフリカをはじめとする開発途上国が自分たちの生活とつながっていること、そして日本は世界の国々に関わりあっていることに気づくことができた。さらに、『どうなるの？世界と島根県』の資料を読むことで、自分たちの住む島根県と開発途上国とのつながりがわかり、世界と関わっていることを自分のこととしてとらえていた。

コラムでは、レアメタルが紛争のきっかけとなっていることが説明されている。そのレアメタル

は携帯電話やパソコン、ゲーム機などに使用されていることから、自分たちの生活がアフリカの紛争の原因になっていることを知り、自分の生活を見直したりどんなことができるのかを考えるきっかけとなったりした。「物を大切に使う」ことはいつも話していることだが、自分のためだけではなくアフリカの人のためにも「物を大切に使う」ことは重要であることを自分なりに考えていたようだ。

10 限目 ぐるぐるまわる貧困の輪

ねらい：貧困の状況同士がつながっていて、悪循環を生み出していることに気づく

貧困の状況を表した7枚のカード（貧困カード）を使って、貧困の状況がどのようにつながっているのかを考えた。

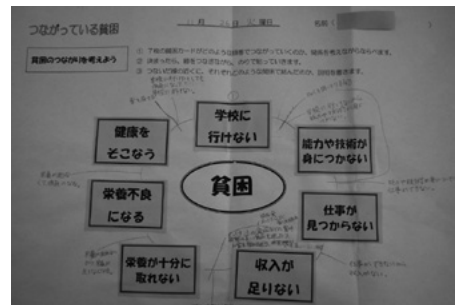
〈貧困カードの内容〉

収入が足りない、健康をそこなう、栄養が十分に取れない、栄養不良になる、学校に行けない、仕事が見つからない、能力や技術が身につかない

- ① 7枚の貧困カードがどのような順番でつながっていくのか、因果関係を考えながら並べる。
- ② 悪循環を文章で表現してみる。
- ③ 貧困のわが決まったらカードをのりで貼り、発表の準備をする。
- ④ 作成した貧困の輪をペア、全体で発表しあう。
- ⑤ 貧困の輪を作ったり友達の貧困の輪を見たりして気づいたことを発表する。

ほとんどの児童が、一番に「学校に行けない」を持ってきて、「能力や技術が身につかない」→「仕事が見つからない」→「収入が足りない」→「栄養が十分に取れない」→「栄養不良になる」→「健康をそこなう」→「学校に行けない」という貧困の輪を作成した。「収入が足りない」を最初に持っている児童も、流れはほぼ同じだった。

作成した貧困の輪の流れやつながりの根拠（理由）は自分と同じかを確認しながら、ペアで発表し合った。

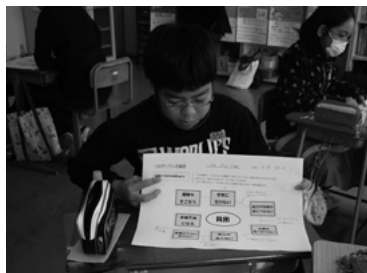


できあがった貧困の輪。
断ち切る方法（11 限目の活動）も記入済み

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・「ずっとぐるぐるつながっているんだな」と思った。どっかでその流れを止めないと、ずっと貧困の生活が続くんだな。
- ・7つの貧困カードは、全部つながるから、ひとつでもなくなってしまったら、このカードみたいにとんどんつながってしまうのかなと思った。
- ・貧しい人たちは、お金がないから食べ物も食べられず病気になりやすい。病気にしないためにはどうすればいいのかなと思いました。
- ・今日やった「学校に行けない」、「収入が少ない」などのほかにもいろいろと原因があるんじゃないかなあと思います。例えば「きれいな水が飲めない」とか。そういう人たちのためにこれから何ができるのかを考えてみたいです。
- ・一つのことでもとんどん困ったことになってしまうのがわかりました。貧困になってしまった人は、そのまま貧困から抜け出せないのかなあとと思いました。貧困で困っている人のために、自分たちに何ができるのかなと思いました。

- ・ほくは「学校に行けない」から始めたけど、同じところから始めた人もつなげた理由などが自分とちがっていて、その理由もいいなと思いました。みんな、貧困の輪をちゃんと理由をもって作っていてよかったです。
- ・だいたいみんな同じ輪だったけど、ちょっとちがう複雑な人がいて、いろいろな考えの人いるなと思った。



作成した貧困の輪は、ペアや全体で発表しあうことで、考えが深まった

〈所感〉

ペアや全体で発表しあうことを通して、流れは同じでもつながりの因果関係が違っていたり、一つの輪でなくいろいろな方向につなげている児童がいたりして、貧困の状況が複雑に関わりあっていることがよくわかる活動だった。

「栄養が十分にとれない」と「栄養不良になる」が同じような内容だったため、混乱した児童がいたので、どちらかひとつにすればよかった。7つの状況だけでなく、他の状況（原因）も考える児童もいたので、カードの枚数や内容については検討が必要だと感じた。

貧困の状況がつながっていることや悪循環を生み出していることに気づくだけでなく、さらに、自分たちができることは何かを考えようとしている児童が多くいたので、次時の学習へとつなげることができた。問題や課題が明らかになった時に、その問題をそのまま放っておくのではなく、どうしたら解決できるのかを考えようとしていたり自分のこととして捉えたりする姿勢が見られ、うれしかった。

11 限目 貧困の連鎖を断ち切ろう

ねらい：貧困の連鎖を断ち切る方法を考え、様々な方法があることに気づく

まず、自分で作った貧困の輪を見ながら、どの部分にどんな方法で断ち切ればよいのかを考え、ワークに書き込んでいく作業を行った。このとき、単純に「学校を建てればいい」、「物をあげればいい」ということにならないように、2つのつながりを断ち切ることが出来なければいけないことを説明した。（学校を建てることは、「健康をそこなう」→「学校に行けない」の関係は断ち切れない。なぜなら、学校があっても健康でないと学校に行けないから。では、どうしたらよいか？）

その後、グループで意見を出し合い、考えを広げる活動を行った。このとき、考えた方法は本当によいか（矛盾していないか）をお互いアドバイスしあった。

〈児童の反応〉

- ・友達と話をしたら、自分が考えられなかった方法も出てきた。
- ・どんな方法があるのか、あまり思いつかなかった。
- ・技術を教える人がいるのは、いいなと思った。

前時の感想でもあったように、貧困の状況は複雑につながっているし、状況も7つだけでない。貧困は複雑につながっていることや様々な人の協力が必要なことを知るために、「チョコレート」にまつわる途上国の問題について DVD を見た。

〈DVD の内容〉

○ 「おいしいチョコレートの真実」

- ・ チョコレートに関するクイズ
- ・ 「ガーナの生活」 - 農村での暮らし、学校の様子
- ・ 「カカオの生産の様子」 - 収穫作業の様子、子どもが行う作業
- ・ 「児童労働の背景」 - 貿易の仕組み、世界で作られる換金作物
- ・ 「児童労働をなくす取り組み」 - 産業の取り組み、フェアトレード

○ 「マシュー君のお話」

コーヒーの生産に関わる農家の生活の様子、コーヒーの不平等な取引、フェアトレードのことについて、小学生のマシュー君が説明している。

〈児童の反応〉

チョコレートは子どもたちの大好きなお菓子であり、8限目「つながっている、開発途上国とわたしたちの生活」でもチョコレートのことを話していたので、とても興味深く DVD を見ていた。

全員の児童が「フェアトレード」について初めて知った。フェアトレードの商品があることが紹介されたが、見たことがないようで、反応があまりなかった。

〈所 感〉

これまでの児童の反応や感想では、「支援」は寄付や募金をするなど「お金をあげる」と考えていた児童が多かったが、今回の学習をすることによって、具体的に「食糧をあげる」「葉を届ける」などの意見が出てきた。そして、「能力や技術を教えてあげる」という方法も出たので、子どもたちの「支援」の幅が広がったと思う。

「おいしいチョコレートの真実」の DVD は、「貧しい」→「働かないといけない」→「学校に行けない」→「知識がない」→「安く働かされる」→「貧しい」という悪循環についてよくわかる内容だった。カードを並べて理解するだけでなく、実際にその貧困の輪の中にいる人たちの生活の様子を見ることができ、今現在、世界の国で起こっていることだということを認識できたと思う。

フェアトレードという支援もあることを知ってもらおうと「マシュー君のお話」も見したが、児童にとっては盛りだくさんの内容だったかもしれない。フェアトレードについては別の機会にゆっくりと説明したり、商品を見たりして学習した方がよかったと反省している。

12 限目 開発途上国で活動する人を探そう(1)ベトナムで活動する人々

ねらい：ベトナムで活動している人の様子から様々な支援の方法があることを知る

まず、貧困が引き起こす問題を「教育（学校）」、「食糧」、「健康」、「くらし（インフラ）」、「しごと」、「その他」に整理した。そして、「それらの分野で、どんな人がどんな支援をしているのかを考えていく」という学習の見通しをもたせた。

ベトナム研修では、青年海外協力隊員や ODA の事業で活動している方に会った。その方たちを紹介しながら、どんな支援をしている人なのかを考える活動を行った。

〈紹介した人〉*活動内容については、児童にわかりやすく簡単にしたり言い換えたりした

- ① Tさん（青年海外協力隊員）－農業の技術指導
- ② Gさん（青年海外協力隊員）－リハビリ
- ③ Dさん（看護師）－病院の制度を作る
- ④ Fさん（大阪市役所の人）－ビンフン下水処理場
- ⑤ 建設会社の人たち－空港や橋を作る
- ⑥ 民間企業－蚊取り線香や殺虫剤の会社

紹介した方の写真 どんな支援をしているのか、予想できるような写真を選んだ。



① Tさん（青年海外協力隊員）



② Gさん（青年海外協力隊員）



④ Fさん（大阪市役所職員）

その他、どんな団体があるのか（ODA、NGO、国際連合、企業）、社会科教科書を使って確認した。

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・いろいろな人たちがベトナムの人たちを助けてあげてすごいと思ったし、ベトナムであんなにがんばれるのがすごいと思う。
- ・文化やしていること、考え方もちがうと思うから、日本でしていることとかなかなか理解してもらえなくて大変だったと思う。
- ・ベトナムで日本の技術が使われていてすごいと思いました。これからもっと日本の技術が広まって、ベトナムが便利でいい国になるといいと思いました。
- ・日本にしかできないこと、先進国としてのよさや技術を生かしていてすごいことだと思います。日本人たちが世界に目を向けているから、こういうことが出来ると思います。
- ・どうしてベトナムに行こうと思ったのか知りたい。
- ・貧困の人を助けたいと思ったのはいつなのかな？
- ・どうしてベトナムでがんばれるんだろう。

〈所感〉

ベトナムで出会った人の活動や様子について、写真を見せながら説明した。ベトナム調べを通して、ベトナムの生活の様子を知り、日本と同じ点や違うところがたくさんあることを理解していた児童は、まず、それぞれの人たちが生活や文化の違いに困っただろうなと想像していた。そして、外国で支援活動をしようと思ったのか、知りたいと思った児童がたくさんいた。

活動の内容を話すときに、私自身がすごいなと感じたことを話したので、児童の感想にも「日本の技術はすごい」というものがたくさん出たのだと思う。直接話を聞くのではなく、間接的に話を聞くことは、本人の気持ちや考えではなく話をする人の気持ちが入ってしまうので、良い面悪い面があり配慮が必要だと思う。

13 限目 開発途上で活動する人を探そう(2)元青年海外協力隊・Iさん

ねらい：開発途上で活動している人の思いや願いを知る

青年海外協力隊の活動、隊員の思いを知るために、JICA 中国より元青年海外協力隊 I さんのお話を聞いた。

〈お話の内容〉

○派遣先の国について

I さんは、トンガに日本語教師として派遣された。

トンガの話では、トンガは海に囲まれていて琵琶湖と同じぐらいの大きさ、トンガの人は大きくガリバー旅行記の巨人の国のモデルになった、ODA で建設された学校の近くにニッポンの名前がついた地区がある、トンガの人は「ありがとう」とすぐに言ってくれる、学校は落第があるなどの話に子どもたちは関心を示していた。何でもシェアする文化をもっていて、小さい子でも分け合っているという良い点もあれば、落第しないように答えを教えあうという困ったこともあるという話など、日本との文化の違いも知ることができた。



トンガで活動された I さん

また、トンガの隣国であるツバルは、環境の変化によって島が沈んでしまう危機にあるという話を聞き、貧困問題だけでなく環境問題も自分たちと深く関わっていることがわかった。

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・途上国は世界中の 80% もあって、とても多いと思った。
- ・やっぱり外国と日本では文化や考え方、人との接し方がちがうんだな。
- ・机や教科書がない中で、勉強をしたり教えたりしていてすごいな。工夫してちゃんと授業をしているということがすごいな。
- ・日本という名前を使っている地区があることを知って、びっくりした。
- ・トンガでは歯磨きをしないことがあたり前だったり、その国によってもいろいろ違うことがわかりました。ベトナム調べみたいにトンガ調べをして、もっとその国のことを知りたいです。
- ・ツバルという国では、島がしずんでしまうと聞いてびっくりした。

○青年海外協力隊の仕事について

ボランティアは「自分で手を挙げてやりますといてする」、「相手のためになる」そして「自分のためにもなる」ということを教えてもらった。また、魚釣り名人がおなかをすかした人に出会ったらどうするかという I さんの問いかけに対し、「魚をとってあげる」、「魚の釣り方を教えてあげる」など子どもたちは考えた。このことから、青年海外協力隊はものをあげるのではなく、技術を教えて現地の人が自分で生活できるようにする仕事をしていることがわかった。120 種もの職種があることを知って驚いていた。

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・青年海外協力隊は、120 個もの活動をしているので、自分にもできそうな活動があるんじゃないかと思った。
- ・青年海外協力隊は、漁業とか教師とかかと思っていたら、編み物や運動とかも教えていてびっくりした。

- ・行く前にも訓練をして、現地に行ってから大変で、思っていたよりもすごく大変だし、すごいことをやっているなと思いました。
- ・海外で活動するのに、言葉や文化のちがいが大変だけど、島の人が仲良くしてくれてよかったということがわかりました。

〈全体を通しての児童の反応〉～Iさんへのお礼の手紙より～

- ・私は教科書でしか青年海外協力隊のことを知りませんでした。でも、Iさんのお話を聞いていろいろよくわかりました。お話を聞いて、もっともっと海外に興味をもてました。
- ・トンガの人はウソをつくことや何でもシェアするとかがおどろきでした。少し悪い方にもつながっていくけど、何でもわけあうのはとてもやさしいんだなと思いました。もし、次の国に行かれるのなら、トンガのような心のやさしい国がいいですね。
- ・外国は言葉が伝わらないし、行きたいという気持ちはしなかったけど、今日の話聞いて、ちがう国の人と協力したり助け合ったりしたいなと思ったし、少し行ってみたいなと思いました。世界で活やくして、世界の人と仲良くなったり、世界のことを知ってみたいなと思いました。
- ・わたしたち6年生はボランティアなどで「お金をあげればいい」、「物をあげればいい」と言っていたけど、そうすると貧困の人はまた他の人が助けてくれると思ってしまうから、技術を教えてあげて、自分でかせいだりしてそのお金で暮らせるようにしてあげる方がいいんだなと思いました。ボランティアは120種類もあるとわかったから、大きくなったら自分の特技や教えてあげられそうなことを見つけて、できたら、世界のために協力したいなと思いました。

〈所 感〉

児童は、ベトナムで活躍する人の紹介や教科書を読んで、青年海外協力隊員というボランティア活動をしている人がいることは知っていたが、具体的な内容や活動の意味は理解していなかった。実際にIさんに来ていただいて話を聞くことで、青年海外協力隊の活動の内容を知り、支援の方法がお金や物をあげるだけでないことや技術を教えることの大きな意味を理解することができた。

何よりも世界の国々に関心をもち、異文化を理解することの大切さを知ることができたことは、とてもよかった。トンガの国や人のこと、Iさんのトンガ人との関わり方、ボランティアは「やってあげる」のではなく「相手にとっても自分にとってもためになる」という話を聞き、まずはその国の人のことをよく知り、仲良くなったり協力したりすることが大切だということをも多くの児童が感じていた。本やインターネットで調べことでは知ることのできない、実際に海外で活動した人の話からしか感じるができなかったことだと思った。

また、これまで貧困問題について考えてきたが、ツバルの話聞き、環境問題も自分たちが考えないといけない世界的な問題の一つであることがわかった。それらにも目を向け、「節電をするようにしよう」など自分にできることをすぐに考えている児童がいて、世界の問題も自分たちのこととして捉えることができるようになっていくと感じた。今後、このことを発展させて、世界の国々と協力して解決していかないといけない問題を考える学習につなげたいと考えている。

14～17 限目 世界で活躍する人々を探そう

ねらい：様々な人や組織が国際協力を行っていることを知る

ベトナム以外の国々では、他にどんな人や団体がどのような活動をしているのか調べ、まとめる活動を行った。どんな団体があるかについては、以前の学習で社会科教科書を参考にして確認している。ODA、NGO、国際連合、企業の4つのグループに分かれて、それぞれ具体的な活動や活動のねらい、活動している人たちの思いなどを本やパンフレットなどの資料を使って調べた。(1グループ2～3人。一人がひとつの活動(団体)を調べ、まとめる)

活動の内容、どうしてその活動をするのか、なぜその支援が必要なのかということだけではなく、その人の思いや願いも知ることができるよう、そこで活躍する人を取り上げて調べることにした。

〈調べた内容〉

○「ODA」グループ

- ・ ODA とは
- ・ 国際緊急援助について
- ・ シニア海外協力隊について
- ・ 二国間協力について (ベトナムのビンファン下水処理場)

青年海外協力隊については、全員が話を聞いて知っているの、別に取り上げて、模造紙(発表用資料)の見本を作った。二国間協力では、ベトナムのビンファン下水処理場を取り上げ、私との聞き取り調査によって活動の様子やFさんの思いなどを調べた。

○「NGO」グループ

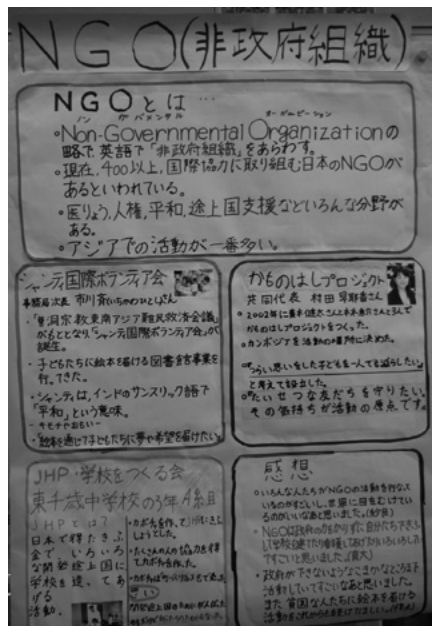
- ・ NGO とは
- ・ シャンティ国際ボランティア会 (カンボジアに絵本を送る)
- ・ かものはしプロジェクト (人身売買をなくす)
- ・ JHP 学校をつくる会 (中学生が協力している活動)

たくさんの NGO の活動のうち、教育や子どもの生活に関わる活動を選んで調べた。

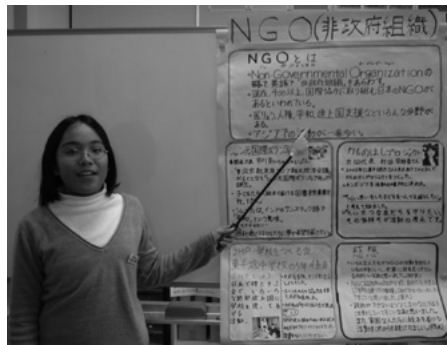
○「国際連合」グループ

- ・ 国際連合とは
- ・ 国連児童基金 (ユニセフ)
- ・ 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)
- ・ 世界保健機構 (WHO)
- ・ 世界食糧計画 (WFP)

ユニセフ、WHO、WFP の活動は世界の子どものための支援をしている点で、児童に身近な組織である。また、6年生は1学期より自分たちにできることとして「着なくなった子ども服を集めて難民キャンプへ送る」活動(レインボープロジェクト)に取り組んでいて、この活動が UNHCR の活動と深く関わっていることから、UNHCR を取り上げた。



一人ひとりが調べたことは、グループで1枚の模造紙のまとめた



発表の練習をしているところ

○「民間企業」グループ

- ・民間企業の CSR 活動とは
- ・日本ポリグル株式会社（水をきれいにする薬品を作り、世界の国々に提供する）
- ・王子ネピア株式会社（トイレを作ったりトイレの仕方を指導したりする）
- ・その他企業

「着なくなった子ども服を集めて難民キャンプへ送る」というレインボープロジェクトは、ユニクロの「服の力プロジェクト」に参加している活動である。そこで、ユニクロのように国際協力に取り組んでいる企業が他にもあることを調べた。

〈所 感〉

6年社会科の学習「我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き」（学習指導要領内容(3)）にもとづいた設定した学習である。

ODA、NGO、国際連合、民間企業の取り組みについて詳しく調べることにより、これまで自分たちが考えてきた貧困問題について、世界中の人が解決に向けて取り組んでいることを知ることができた。そして、日本人は自分たちのもっている技術を生かして支援をしていることに気づき、日本人が世界で活躍していることの素晴らしさを感じ始めていた。

調べ活動では、主に図書資料やパンフレット資料を使った。児童にとって読みやすくまとめられたものだったが、新しい情報は少ない。インターネットでも子ども用にわかりやすくまとめられているサイトもあるので、活用できるとよかった。

この後、調べてまとめたことを発表し合い、それぞれの活動について知るとともに、日本の技術が生かされていることなどの日本のよさを話し合ったり、自分にできることを考えて意見文にしたりして、まとめとする。

全体を通しての成果と課題

〈国際理解教育の取り組みについて〉

本校の6年総合的な学習の時間では『国際理解教育』と『平和学習』を扱っており、社会科と関連させながら学習を進めている。『国際理解教育』では、4月に『世界一大きな授業』（教育協力NGOネットワークJNNE主催）に参加し、世界には学校に通えない子どもたちがたくさんいることや教育を受けられないために起こる問題について知ったり考えたりした。このことをきっかけに、1学期から『レインボーチャレンジ』として世界の現状を知ることや自分たちができることとして、着なくなった子ども服を集めて難民キャンプへ送る『レインボープロジェクト』の活動を進めてきた。「開発途上国のことを知り、その問題について理解し、解決のために行動する」という活動を行ってきたと言える。しかし、開発途上国についての理解が十分でないまま、『レインボープロジェクト』に取り組んでいたため、古着を集めることが中心の学習になってしまっていた。

そこで、夏のベトナム研修を機に、もう一度学習計画を立て直し、世界の現状を知るために、ベトナムの様子や開発途上国と日本とのつながりについて調べたり、開発途上国の貧困問題を考えたりする活動を取り入れた。また、総合的な学習の時間だけでなく、社会科「我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き（学習指導要領内容(3)）」と関連させて単元を構成した。

長期間に渡る学習であったけれども、「貧困の輪を作る→どうやったら貧困から抜け出せるのだろうか⇒支援の方法を考える→他にはないのか⇒ベトナムでの支援活動を紹介する」というように、学習したことに対する児童の感想や疑問を次への学習につなげて展開していくことができ、学習意欲を継続したまま取り組むことができた。また、ベトナム調べや元青年海外協力隊の話聞くこと、開発途上国と自分たちの生活とのつながりを考えるという活動を取り入れたことで、世界的

な問題を自分のこととして捉えて、自分にできることは何かを考えたり今からすぐに実行できることをしようという気持ちをもったりする児童が増えた。

学習計画を見直すことがなければ、開発途上国に目を向けることも世界で起こっている問題に気づくこともなく、「服を集めて送ることができた」で終わってしまっていたと思う。1学期の取り組みも振り返りながら学習計画を立て直すことができたことは、大きな成果だった。一方、長期間に渡る学習であるため、盛りだくさんの内容となってしまった。年間を見通して、社会科との関連も考えながら、学習を構成しなければならない。また、扱った資料なども多く、児童にとって負担になった面もある。どのような課題（内容）に取り組ませるのか、教材や資料にどのようなものを使ったらいのか、精選することが必要だと感じた。

成果

- 総合的な学習の時間『国際理解教育』の学習計画を見直し、社会科と関連させて横断的に学習を進めることができた
- 開発途上国の問題（貧困問題）を取り上げて考えることで、世界的な問題を自分のこととして捉え、身近なことから行動しようという気持ちを育てることができた

課題

- 1年間を見通した学習計画の見直し
- 学習課題（学習内容）や資料の精選

〈実践の目的について〉

- ベトナムのことを知る活動を通して、異文化を感じ、世界に目を向ける

ベトナムクイズやベトナム調べをきっかけとして、ベトナムのことに関心をもつ児童が増えた。日本と似ていることが多くベトナムに対して親近感をもつことができたり、違う文化や考え方があつたことを知つて協力して活動するにはお互いを理解しあわないといけなことを知つたりすることができた。ベトナムを知る活動をしたことによつて、ベトナムで活動する人々の紹介をしたときには、「違う文化の中で生活するのは大変だろう」、「考え方が違う中で、理解してもらつていてすごい」という感想が出てきたのだと思う。

また、元青年海外協力隊員Iさんの話でも、まずトンガという国のことや人々のことを知り、トンガに親近感をもつことができたので、その後の青年海外協力隊の活動のことやツバルの環境問題についても、自分のこととして捉えて考えることができた。

安来市の小さな町に暮らす子どもたちは、普段、外国の人と接する機会は多くなく、この学習を通して世界に目を向けてほしいと思つてた。学習の前に「言葉が話せないから外国に行きたくない」と思つていた子どもたちが、世界の国々に関心をもち、「いろいろな国のことを調べてみたい」「将来、海外に旅行に行きたい」「外国の人と友だちになりたい」と話すようになり、とてもうれしく感じた。

- ベトナムと日本が文化や経済などの面で関わりが深いことを通して、開発途上国と日本とのつながりに気づき、開発途上国の貧困問題について考える

私自身、ベトナムと日本が文化や経済で深く関わつていることを今回の研修で初めて知つた。そして、開発途上国との日本のつながりについても初めて知ることが多くあつた。

子どもたちは学習を通して、ベトナムだけでなく開発途上国の国々が、自分たちの生活と深くかわりあつていること、自分たちの生活が貧困問題や環境問題の原因になつていることなどを知ることができた。そして、世界には貧困問題で苦しんでいる人がいるという現状を知つただけでなく、どうやったら貧困から抜け出せるのかを考えたり開発途上国のために活動している人のことを調べたりするを通して、自分にできることを考えるようになった。これからも世界に目を向け、自分の生活と深くかわつていることを思い出して、自分にできることを考えてほしい。

- ベトナムで活躍する日本人の活動を通して、国際協力や国際交流において、日本や日本人が大きな役割を果たしていることに気づくとともに、自分にできることを考えて行動しようとする

ベトナムで出会った方々は自分の仕事に誇りをもっていたり、自分が外国の人たちの役に立っていることをうれしく思っていたり、あらためて日本や日本人のよさを感じていたりしていた。多分、世界で活動している人は同じことを感じていると思う。ベトナム研修でのことを授業に生かす際には、出会った人たちの思いを子どもたちに必ず伝えたいと考えていた。そこで、ベトナムで活躍する日本人を紹介する時には、活動の内容だけでなく、それぞれの人の思いも話をした。そして、世界で活動する人や団体を調べるときにも、できるだけ活動している人を取り上げてその人の思いや願いも知るようにした。子どもたちは、日本や日本人が国際協力において大きな役割を果たしていることや日本人は素晴らしい技術をもっていることを知り、自分にも何かできるかもしれないという気持ちをもったり、今の自分にできることからしてみようと考えたりするようになった。

自分にできることを考えるだけでなく、さらに自分にできることをひとつでも行動にうつし、長く取り組むことができるような活動を考えたい。

成果

- ベトナムのことを知る活動を通して、異文化を感じ、世界に目を向けることができた
- ベトナムと日本が文化や経済などの面で関わりが深いことを通して、開発途上国と日本とのつながりに気づき、開発途上国の貧困問題について考えることができた
- ベトナムで活躍する日本人の活動を通して、国際協力や国際交流において、日本や日本人が大きな役割を果たしていることに気づくとともに、自分にできることを考えて行動しようとする児童が増えた。

課題

- 貧困問題だけでなく、環境問題などについても考えさせたい。
- 自分にできることを実際に行動にうつし、長く取り組めるような活動を取り入れる。

ワークショップ、調べ学習・・・、どの時間も子どもたちは新しい発見があり、さらに知りたい、もっとやりたいという意欲が見られた。ベトナム研修でぜひ子どもたちに伝えたいと考えていたこと「世界に目を向けることの大切さ」や「日本人のよさや素晴らしさ」を子どもたちはしっかりと感じる事ができたと思う。今回の授業をきっかけにして、世界の問題に目を向け、「世界の人のために自分にもできることがあるかもしれない」という気持ちを将来にわたって長く持ち続けて欲しい。

参考資料

【書籍】

- ・アジア保健研修財団「アジアのこども」編集委員会（1995）「アジアのこども」明石書店
- ・国際協力機構中部国際センター（2006）
「教室から地球へ～開発教育・国際理解教育虎の巻～」東信堂
- ・池田香代子（2001）「世界がもし100人の村だったら」（マガジンハウス）
- ・JICA 教材作成実行委員会（2013）「国際理解教育実践資料集」（JICA 地球ひろば）
- ・島根県版日本と地域と途上国相互依存度調査「どうなってるの？世界と島根県」（JICA 中国）
- ・JICA パンフレット「JICA の仕事」
- ・文部科学省（平成20年）「学習指導要領解説社会編」（教育芸術社）

【映像資料】

- ・DVD 教材「おいしいチョコレートの真実」（特定非営利活動法人 ACE）
- ・DVD「マシュー君のお話 フェアトレードってなあに」（フェアトレード・ラベル・ジャパン）

【インターネット】

- ・「JICA 国際協力機構」 <http://www.jica.go.jp/>
- ・「世界一大きな授業2013」 <http://www.jnne.org/gce2013/>

児童の調べ学習に使用した資料

【書籍】

- ・ポプラディア（ポプラ社）
- ・きっずジャポニカ（小学館）
- ・きみにもできる国際交流⑥ベトナム（偕成社）
- ・島根県版日本と地域と途上国相互依存度調査「どうなってるの？世界と島根県」（JICA 中国）
- ・絵本世界の食事13 ベトナムのごはん（農文協）
- ・元気が出る！世界の朝ごはん①東・東南アジア（日本図書センター）
- ・ベトナムのガイドブック（各出版社）
- ・国際協力のお仕事 世界で活躍する日本人1～6（学研）
- ・21世紀をつくる国際組織じてん2・3・4（岩崎書店）
- ・調べてみよう世界のために働く国際機関（ほるぷ出版）
- ・できるぞ！NGO活動 学校をつくる教育問題（ほるぷ出版）
- ・世界にはばたく日本力 日本の国際協力（ほるぷ出版）
- ・この人はなぜ？いま、日本からできること（UNHCR 駐日事務所）
- ・国際理解教育実践資料集（JICA 地球ひろば）
- ・JICA's world 2013年3月号（JICA 広報誌）

【資料1】ワークシート

____月 ____日 ____曜日

名前 (_____)

世界とつながるわたしたちの生活

開発途上国とわたしたちの生活について考えよう

☆下にある18品目は、私たち日本人におなじみのものばかりです。この中から、アフリカとつながりがあるものを選びましょう。

たこ焼き 	携帯電話 	蚊取り線香 	チョコレート (カカオ) 
ゴマ 	電気 	イセエビ 	ダイヤの指輪 
スシ(マグロ) 	バラの花 	ガンリン 	バニラアイス 
桃のジャム 	化粧品 	うなぎ 	ゲーム機 
プラチナの指輪 	コーヒー 		

☆上で選んだものが、どのようにアフリカとつながっているのかを考えてみましょう。